

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 24年 2月 28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成23年11月19日(土)	評価結果市町村受理日	平成24年3月8日(木)

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/JigyosyoListPub.do
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年11月28日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設では無く、【家】と考え生活リハビリを中心に、出来ることを把握する事により利用者様のADL・QOL向上に努めています。
- ・御家族様にも、宿泊して頂きいつでも気軽に来宅して貰える雰囲気作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員さんは笑顔を絶やさず、家庭と同じ雰囲気作りに努力されておられる支援が随所に見られました。また、開所1年目の施設で設備は新しく入浴の浴槽も介助にあわせて移動できるよキッチンも対面キッチンになっていて入居者の方が一緒に調理出来るように工夫され四方が見渡されあらゆる角度からの職員の視線が有り安全面も配慮されていました。リハビリを考慮してご自分で出来ることは自分で残存能力を大切にされておられました。個人の思いを出来るだけ叶えようと個々の声を聞き入居者に楽しい時を過ごしてもらいたいと支援にあたられる姿はとてもほほえましい雰囲気でした。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、ファイルに入れていつでも確認できる様にしているものの、全スタッフががとうと理念を共有できておらず 今後は全スタッフが理解し実践につなげていきたい。	利用者・職員共に笑顔であるよう、家でいるように自然な日々にしたと努力している姿が要所要所見られた。職員への徹底に關しては、開所1年目と言うのもあり、現在周知徹底に向け改善中の意気込みを感じる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近所の方との挨拶や、盆踊りなどの地域行事の参加を通して地域との交流をしている。	散歩していても近隣の方々の声かけ、社協を通じてボランティア訪問・自治会の祭り、盆踊りに参加など積極的交流され、買物も近隣で行いお金を自分で渡しおつりをもらうようにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベントの音楽会に、近隣の方が鑑賞に來られ施設の中を見て頂き理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しているが、結果をスタッフに報告しておらず今後は報告書で説明し、全スタッフが共有する様に努めたい。	地域住民(町内会長・民生委員)、地域包括の方々に2ヶ月に1回の開催現状を知ってもらい、足りないところを補ってもらい施設の良いところは活用して頂くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出方法や疑問等で連絡しているが、【密に】とは言えずなので今後は積極的に協力関係構築に努めたい。	地域包括・市町村担当者とは書類の提出時は接触があるがそれ以外は少ないようです。	行政と密に連絡し相互の助け合いを期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、本社で講義があったがその後は皆無で 施設内研修を開いたり、各スタッフが外部研修に行く等し、しっかりと把握し意味を理解していきたい。	夜間ベッドからの転倒を防止するため柵をしている方もあるが、出来るだけ声かけをして(徘徊)どこにいくのなど、車いすに移乗なども行い脱拘束に取り組んでいる。玄関の鍵は入居者の状況に応じて安全を考慮し施設している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時、本社で講義があったがその後は皆無で 施設内研修を開いたり、各スタッフが外部研修に行く等し、しっかりと把握し意味を理解していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時、本社で講義があったがその後は皆無で 司法書士の方に依頼する等し研修を開きしっかりと意味を理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、フロアーリーダーが主体になり家族様の要望や疑問点を聞き取り説明し、新たな疑問点があればいつでもお答えさせて頂きますと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来宅して頂いた際など、意見や要望を言っけて頂ける雰囲気や今以上に築きあげていきたい	施設たよりは毎月・アンケート顧客満足度は年に1回・家族会などを開いたり運営推進会議にも出席して頂き積極的に意見を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議で意見を聞く場を設けているが、今後は会議以外でも全スタッフが意見や提案できる様に努めていきたい。	全員参加のスタッフ会議を月1回1時間位開き、職員の意見・提案・介護計画等について話し合いを行っている。行事の反省、新しい取組などの提案もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社、人事課より給与体制やキャリアアップ等の説明を受けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社による【マナー委員会】【接遇委員会】を出来るだけ参加し、また施設内研修を月1回行っている。 今後は施設外研修の充実を図りたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との集まりや報告会で交流はあるが、スタッフになると交流は無いので今後はスタッフにも交流の場を作って貰える様に管理者へ要望を出している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテークでは、御本人様からの要望を聞き取りする事は難しいが家族様の話を傾聴し現状を把握する様に努めて、安心して生活して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテークでは、家族様の話を傾聴し困難な現状を把握する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、管理者とフロアリーダーで家族様から話やすい雰囲気作りに努め安心して生活して頂ける様に心掛けている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の状況を把握し、出来る事は、やって頂き日々楽しく生活出来るよう支援している。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ全員で日頃から、いつでも来て頂ける様に雰囲気と気持ちを出し、また、施設イベントにも積極的に参加して頂ける様に声掛けています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者には、馴染みの方が来られるが全利用者対象となるとまだまだ不十分で馴染みの場所には行けていないので家族様	お墓参りをしたり、なじみの所に散歩・行き慣れた喫茶店にお茶を飲みに行ったりされてますが全員の思いを実現は出来ていないようです。	少しずつ思い 意見をゆくりと聞き 実現出来るよう努力を期待したい。あと一息です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の個性を大切にすると共に、皆が仲良く出来るような雰囲気作りをレクレーションや日常生活で関係を築き支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は現在で2件であるがアフターフォローは十分とは言えずなので、相談や支援等の関係を継続したい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等でサービス内容を検討し思いや意向の把握に努めているが介護者の都合の良いケアになっている部分もあるので改善していきたい。	今できる事を出来るだけするようにしておられ。トランプ、麻雀なども取り入れ脳のリハビリをされています。家族の協力もあるようです。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様などから得た利用者様の個人情報ファイルをまとめ、把握に努める様になっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを通じたり、ケア記録やミーティングの報告や連絡で把握に努めているが訴えの少ない方の現状把握が後回しになっているのを改善していきたい			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の現状に応じて、管理者が地域包括や後見人と連携しケアプラン作成の為に情報収集をしている。この様な事を、全スタッフに周知する様に改善していきたい。	入居時に本人や家族の意向を聞き、介護計画を作成、状況に応じて見直し職員の意見・ミーティング時の情報を元にモニタリングを行い現状に即した介護計画となっている。地域包括とも連携しよりよい支援計画になるよう努力されています。職員はいつでも確認できることが出来る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の記入方法の施設内研修を行い個別に記入している。また、出勤時には最初に目を通し理解するように管理者より言われている。今後は【気づき】【工夫】も記録していきたい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物など、日程を決めずに参加して頂いている。また、遠方の受診に行った際、家族様とも外食するなどしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【地域資源】の意味を全スタッフが把握、理解する事から始め、今後は利用者様に提案や支援をしていきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各フロア毎に毎週往診に来て頂き管理者より利用者本人の状況や家族様の要望をドクターに報告している。	歯科医の訪問/看護師による健康管理も行われている。各1階を2週間に1回の往診なので具合が悪い方があれば診てくださり毎週の感じで診察がある。その他の病気はその都度外部の医院に職員が通院介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各フロア毎に毎週来て頂き、管理者が中心になって報告している。また、利用者様の治療に関してはドクターより指示書を出して頂き看護して貰っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、病院関係者との意思疎通が不十分なので、今後は構築し 全スタッフにも情報を共有していく様にしていきたい。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフに看取り加算を申請している旨を説明し、看取り介護の施設内研修を実施したが今後回数を増やしてもと理解を深めていきたい	開所間もない事もあり、まだ看取りの方はおられないが、もし現実に看取りが必要になられた方がおられたら誠心誠意お世話が出来よう職員間では話しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を通じて勉強会をしているがスタッフの力量にバラつきが見られ今後は全スタッフが実践できる様にしていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施予定だが、今現在日中の1回しか出来ておらず早急に夜間訓練の実施にむけたい	非常袋 ナップバック(必要最低限)の用意をされていますが、消防署が入り本格的避難訓練を利用者も交えて夜間も含めて実施を	地域との合同訓練などを計画・災害時に助力を願う・非常食のストック考慮必要
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様であり、人生の先輩として色々な事を教えて頂く気持ちで言葉を選び、優しさと思いやりのある会話を重ねてその人に応じた対応を心掛けています	職員は入居者個々の人権の尊厳、プライバシーの確保の必要性を認識できている。入居者、家族と対応時、丁寧な言葉使い態度で対応している。入職時、6か月後には接遇のフォローアップ研修が行われ、質の確保がされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も、御本人様の決定権を大切にこちらの指示ではなく希望に沿った行動をして頂ける様に努力している。また、訴え時には傾聴し思いに添える努力をする様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の言動・行動を理解して日々対応していきたいが業務に追われスタッフ都合で動いている事も見受けられる。今後は【ムリ】【ムダ】【ムラ】の無い動きで業務に追われない様にしたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそり、みだしなみ、清潔な服装を心掛けているが、おしゃれの部分の支援が少し出来ていないので改善していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で本人の能力を生かして、食事準備や洗い物など利用者様とスタッフが一緒に取り組む支援を実行している。	食事の献立については、個々の好みを活かされ好みの献立が提供される。利用者の残存機能を活かした調理への参加があり利用者は料理をする楽しみがある。食事は利用者、職員と一緒に楽しみながら召し上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士によるメニューでバランスを保って頂き、食事形態にも気をつけている。補水量は少ない方にはゼリーを作り摂取して頂く様に工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアし義歯はスタッフがブラッシングしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今後は、施設開所からの課題である排泄パターンの把握やおむつ外しの意味と意義を全スタッフが理解できるようにしていきたい。ポータブルトイレを使用せず、誘導・支援している。今後は、施設開所からの課題である排泄パターンの把握やおむつ外しの意味と意義を全スタッフが理解できるようにしていきたい	個々の排泄に関するアセスメントを深め、排泄パターンを把握している。極力、オムツを使用しないで排泄の自立に向けた取り組みが行われている。排泄の自立の意味を全職員が理解できるよう教育研修が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のケア記録で排泄、マイナス日を確認し補水強化や腸動マッサージを行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方には、体調の異変等が無い限り、入りたい日に入浴して頂いている。	入浴の支援については、本人の意向で希望があれば毎日入浴も可能。体調に合わせて入浴を楽しんでいただけるように配慮されている。お湯の張替えは、2~3人で張り替え、出来るだけ清潔なお湯が提供できるように工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、外気浴や散歩の光療法やレクリエーションなどで活動量を上げて支援している。困難な場合はかかりつけ医より、眠前薬を処方して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ていない。各利用者様の服薬表は個別にあるが今後は、薬剤師に依頼し講習を開いて貰いスキルアップを図りたい。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や将棋、麻雀など【したい事】【やりたい事】【出来る事】を大切に支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様、施設関係者と受診に行った際、御本人様の好きな食べ物を聞き取り外食する等支援している。	個々の希望により、買い物などの外出が日常的に支援されて。近隣のスーパーへの買い物などは職員の共に出かけている。地域のかかりつけの診療所などへも受診が出来る
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際、お金を渡して頂いたりお釣りを受け取って頂く事をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ていない。 今後は手紙やはがきを書いて頂いたり電話をしたりして頂き生活にハリを持って頂きたい。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間と専有空間の清潔は保つ努力をしているが、生活感や季節感を採り入れているとは不十分なので、今後は力を入れていきたい。	居室の入り口には本人の写真が掲示されていて、安心して生活ができるような配慮がされている。使い慣れた家具を持参、今までなじんだものに囲まれて生活が出来るので心地よく過ごせる環境である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独歩の方は居室、フロアと自由に行き来して頂き、車いすや介助のいる方には声掛けしている。食事の際も気の合う方同士で集まられる様に支援している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や机など入所前に使用されていた物を自由に持ってきて貰えるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に【調理】【掃除】【洗濯物たたみ】等、出来る事は やって頂ける様に支援や声掛けをしている。	